



RegTech コンプライアンス・第三者委員会  
～ 企業が第三者委員会に備えるために ～



RegTech インハウス・フォレンジック調査ソリューション



# AOS Forensics ルーム 第三者委員会 調査事例

リーガルテック株式会社  
an **AOS** company

企業においてコンプライアンス上の問題が生じた際に、当該企業が「第三者委員会」を設置して調査をするケースが増えています。日弁連が公表している第三者委員会のガイドラインによると、第三者委員会はデジタル調査の専門家を選任できるとあるが、調査にあたっては、証拠隠滅の手段を講じて、証拠データの保全を行い、デジタル調査に留意する必要があると定められています。

## インハウス・フォレンジックソリューション

「AOS Forensicsルーム」は、企業内において、不正調査を行うことを目的として、企業内に設置されるフォレンジック調査官が作業を行うための専用ルームです。リーガルテック社は、AOS Forensicsルームの設立のためのコンサルティングからフォレンジックツールの選定、使い方のトレーニングを提供し、より高度なフォレンジック調査サービスを通じて、インハウス・フォレンジックルームの設置を支援いたします。



### インハウス・フォレンジックの6つのメリット



ガバナンスと  
コンプライアンス



情報  
セキュリティ



訴訟  
対策



デジタル  
調査



内部  
調査

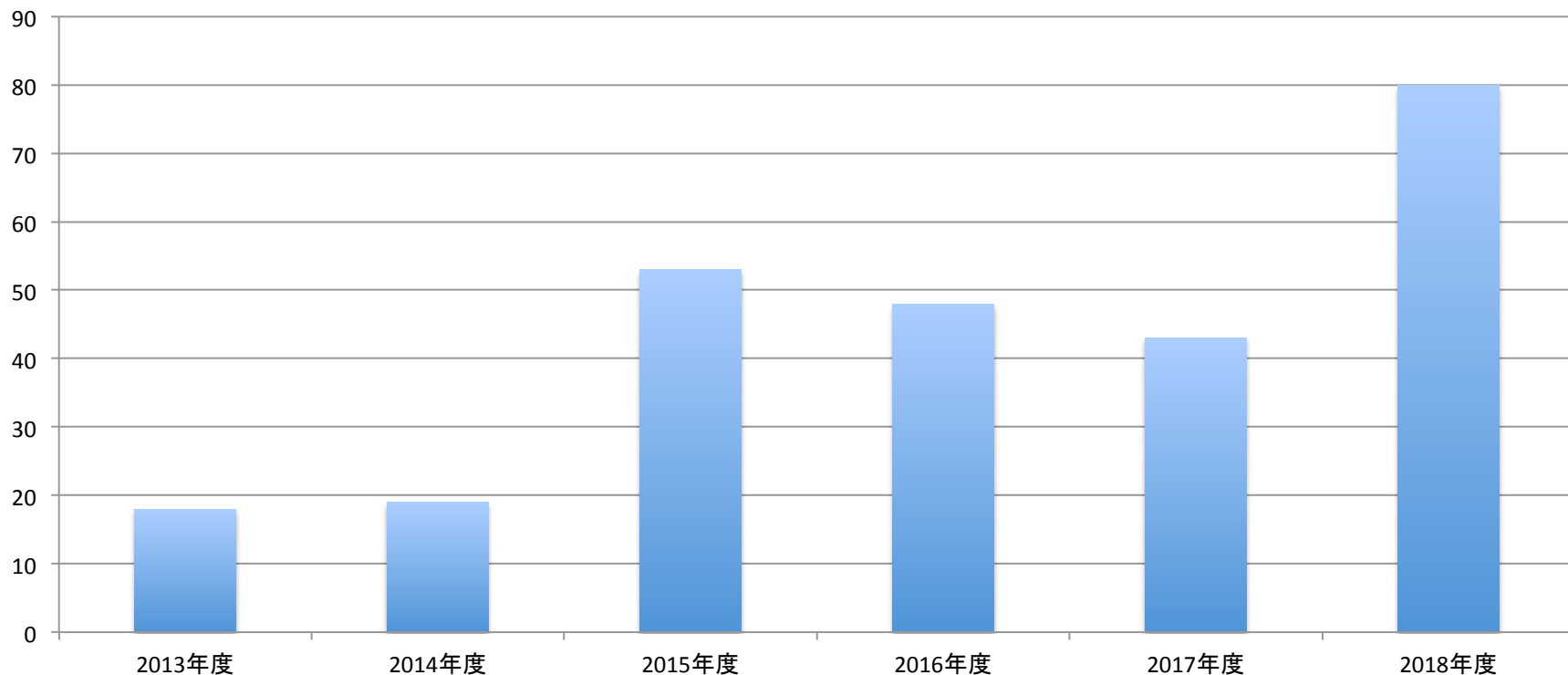


モバイル  
調査

- ・社内に適用すれば数億円を節約する戦略的なセキュリティ対策
- ・米国では38%の企業がセキュリティ戦略の一形態としてフォレンジックツールと手法を利用しています。

# 第三者委員会の設置件数が2018年に急増

税理士法人フォーサイトが運営する第三者委員会の情報サイトによると、2018年に第三者委員会が設置されたケースは80件で2017年の43件に比べて、倍増しています。



(第三者委員会ドットコム)

FSS.jp/forensic-room/

乳業大手の雪印メグミルクの子会社の雪印種苗は、2018年4月に牧草種子の品質を偽装して販売していたと発表し、これを受けて社長が辞任しました。

この偽装問題は、内部告発がきっかけとなり、2018年の2月から第三者委員会が設置され、本格的な調査が始まりましたが、その調査は徹底しており、雪印種苗や親会社の雪印メグミルクの役員ら45人に対して、61回のヒアリングを行い、関係する役員らのパソコンやメールサーバーから約61万件のメールや添付ファイルを抽出し、削除されていたデータは、復元させ、現役の役員や社員約600名を対象にアンケート調査も行い、254ページの報告書にまとめました。

この第三者委員会の報告書は、格付け委員会に非常に高い評価を受け、数ある第三者委員会の歴史の中でもまれに見る成果と称えられた事例です。

雪印食品は、2004年による牛肉偽装事件が起こり、社長が辞任、最終的には、会社清算となったという経緯もあり、今回は、徹底的に調査を行なったことが高評価に繋がったのではないかと思います。

<http://www.meg-snow.com/ir/news/pdf/20180427-1192.pdf>

企業が第三者委員会の対策として、AOS Forensics ルームを活用するメリットとして、予防法務としてのメリット、早期発見のメリット、事後対策としてのメリットの3つがあります。



## 予防法務としてのメリット

第三者委員会が設置される事態に陥らないようにするような措置を取っておくことは非常に重要な予防法務になります。AOS Forensics ルームを導入することによるメリットは、不正の証拠調査能力が高まったことを社内へアピールすることで、不正に対する抑止効果を発揮することです。



## 早期発見のメリット

第三者委員会が設置されるような兆候が検出された場合に、迅速な調査スピードが求められます。専用のフォレンジック調査室があり、早期発見の能力を高めていることには、早期発見の精度を高め、第三者委員会設立前の判断を迅速に進められるというメリットがあります。



## 事後対策のメリット

第三者委員会設立後は、社外の専門家による証拠調査が行われますが、その場合にも正しい手続きで保全をし、専門家が行うのと同様のレベルで調査したデータは、第三者委員会に提出する参考データとしても有益な証拠となります。第三者委員会の調査効率を高めることとなります。

## AOS Forensics ルームでの作業プロセス（予防法務）

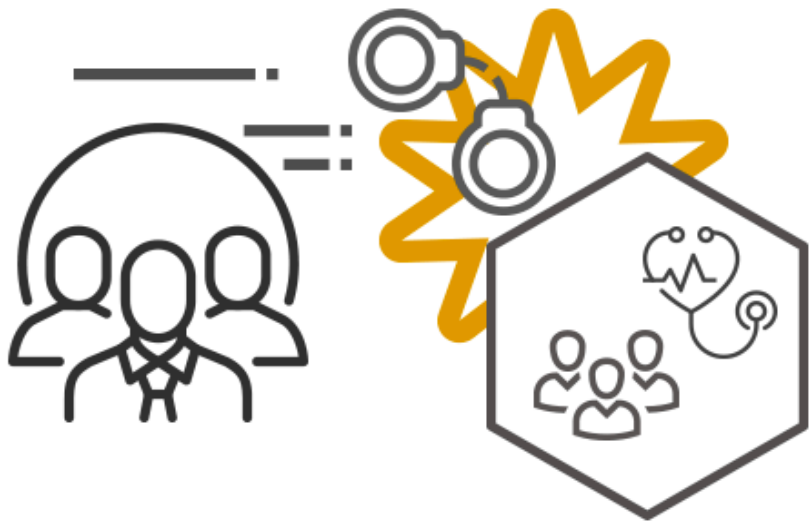


## 予防法務としてのメリット

### 迅速の予防調査を社内で行える

第三者委員会が設置されるような事態に陥ると、企業は、長年築き上げてきた信用を毀損することにもなります。AOS Forensics ルームを導入することにより、企業は、迅速に予防調査を社内で行えるようになります。不正を調べるためには、データの改ざんの有無や消されてしまったデータの調査が必要となりますが、これらの調査を行うためには、専門家がフォレンジックツールを使って調査を行う必要があります。インハウス・フォレンジックとして、AOS Forensics ルームを導入すれば、外部の専門家に依頼しないでも、企業が社内でフォレンジック調査を行うことができるようになり、迅速に対応が可能となります。第三者委員会が設置されるような事態を防ぐことが最も重要な予防法務となります。

## AOS Forensics ルームでの作業プロセス（早期発見）



## 早期発見のメリット

### 不正の通報窓口を設置、内部通報制度の設立

不正の痕跡を早期に発見できれば、第三者委員会設立の判断を早期に行うことができます。

第三者委員会の設置が倍増している状況では、不正を早期発見できる能力を企業が備えることには、多くのメリットがあります。

第三者委員会が設置され、調査内容が公表されると企業は大きなダメージを受けることがありますが、早期発見の能力を高めておくことで、迅速な対応が可能となります。

早期発見のための有効な対策は、コンプライアンス違反の通報窓口を設置することや内部通報制度の設立などがあります。その他に抜き打ちでの内部監査を実施したり、匿名での社内アンケート、従業員へのインタビューなど、企業の側から積極的に不正を早期に把握できる方策を講じることも有効な対策となります。

早期発見、早期解決が第三者委員会が設置されるような事態で被害を最小限に留めるための有効な対策となります。

## AOS Forensics ルームでの作業プロセス（事後対策）



## 事後対策としてのメリット

社内のデジタル証拠の調査で迅速に対応

第三者委員会が設置され、外部の有識者による調査が始まると、外部の専門家がデジタル証拠を調査することになります。このような事態に対して企業が自力でデジタルデータの証拠調査能力を備えておくことに大きなメリットがあります。

第三者委員会が証拠として採用できるような正しい手続きで保全したデータや、復元調査を行なって検出した証拠は、第三者委員会に提出する証拠としても重要な役割を果たすこととなります。第三者委員会が設置されるようなケースに陥った場合に、社内にフォレンジック調査室を設けていないと、事前に十分なデジタル証拠の調査が行えず、証拠を見つけることができず、原因究明が遅れることにも繋がります。

社内でデジタル証拠の調査を行えば、このような事態に迅速に対応することが可能となります。



フォレンジック調査は、初期調査、データ収集(保全)、データ処理・解析、レビュー、報告の5つのプロセスで行います。初期調査では、調査対象となる機器を特定し、保全対象の優先順位を決定します。そして、調査対象となった機器の証拠性を損なわないようにコピーを行います。収集したデータをフォレンジックツールで処理し、復元、検索、分類などの解析作業を行います。処理されたデータをレビューし、証拠データを特定して、報告するという流れとなります。



## 初期調査

ファストフォレンジック調査により、調査開始時に調査の対象にしようとしている機器のデータの状態を速やかに把握し、保全対象と優先順位を決定します。



## データ収集(保全)

調査対象機器内の証拠性を損なわないように、データの収集を行います。削除されたデータの復元が必要になる場合は、ディスクイメージの収集が必要となります。



## データ処理・解析

収集したデータの解析、復元、検索、分類等を行います。優れたツールを駆使することにより、証拠調査能力を高め、迅速な分析ができるようになります。



## レビュー

証拠を特定します。場合に応じて、レビュープラットフォームを使用します。最新のツールを駆使すれば、レビュー時間を大幅に削減することができます。



## 報告

報告書及び、報告用の最終成果物をまとめます。ケースに応じた報告書のフォーマットを活用することで、包括的な報告書を効率よく作成できます。

AOS Forensicsルームは、フォレンジック調査ソフトやハードウェアをコンポーネントで構成されたシステムとして提供し、調査室の設置、システムの使い方、フォレンジック調査の方法、調査官の教育及び研修、調査支援などを行いインハウス・フォレンジック調査室の構築を支援します。

- フォレンジックルーム設置支援
  - ルーム運用規定の策定支援
  - フォレンジック調査用ハード/ソフトウェアの選定と調達
  - 作業環境の構築支援
- フォレンジックトレーニング
  - 管理者向け・・・インシデント発生時の対応について
  - 技術者向け・・・各種フォレンジックツールの使用方法について
  - レビュー管理者向け・・・レビューの進め方やタグ、ステージについて
- コンサルティング
  - フォレンジックの専門家がコンサルタントとしてフォレンジックルームに関する質問にお答えいたします。

2011年 大相撲の八百長事件 カ士の携帯電話を復元し、八百長の痕跡を調査

2014年 ノバルティス ファーマ株式会社 白血病治療薬の臨床研究に関する調査で削除ファイルを復元

<https://www.novartis.co.jp/sites/www.novartis.co.jp/files/report-2014.pdf>

2015年 株式会社コネクトホールディングス 営業取引の問題調査 14,899通のメール調査を実施

<http://tdnet-search.appspot.com/140120151026425623.pdf>

2015年 東邦亜鉛金属株式会社 不適切な会計処理に対する調査 メール、オフィスファイル調査を実施

[http://www.toho-zinc.co.jp/news/pdf/news\\_20150527.pdf](http://www.toho-zinc.co.jp/news/pdf/news_20150527.pdf)

2018年 東邦金属株式会社 会計不正調査

<https://profession-net.com/professionjournal/financial-statements-article-101/>

2018年 雪印種苗株式会社 種苗法違反に関する調査 カタリスト社の依頼で証拠データの復元調査を実施

<http://www.meg-snow.com/ir/news/pdf/20180427-1192.pdf>

2019年 KYB株式会社 建築物用免震・制震オイルダンパーの検査工程等における不適切行為調査

[http://www.kyb.co.jp/company/progress/progress\\_20190213\\_02.pdf](http://www.kyb.co.jp/company/progress/progress_20190213_02.pdf)

## リーガルテック株式会社 会社概要

設立 : 2012年6月  
資本金 : 51,000,000円  
代表取締役 : 佐々木 隆仁  
株主 : AOSテクノロジーズ(株) 100%  
事業内容 : VDR事業

eディスカバリ事業  
フォレンジック事業  
司法インフラ事業  
(法律検索 LegalSearch.jp)

Web : AOS.com  
LegalTech.co.jp

顧問弁護士 : 吉峯 耕平 田辺総合法律事務所  
大井 哲也 TMI総合法律事務所  
金井 高志 フランテック法律事務所  
高橋 喜一 コスモポリタン法律事務所  
清水 陽平 法律事務所アルシエン  
大平 恵美 DSA Legal Solutions, Professional Corporation  
赤坂屋 潤 表参道パートナーズ法律事務所  
渥美 雅之 三浦法律事務所  
高田 佳匡 鎧橋総合法律事務所





# リーガルテック株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-13-1 虎ノ門40MTビル 4F

TEL : 03-5733-5790 FAX : 03-5733-7012

カンパニー長 古川 宏治 k.furukawa@aos.com

リーガルコンシェルジュ 笹野 由季子 y.sasano@aos.com

AOS.com  
LegalTech.co.jp